

科学省グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」(2008～2012)、博士課程リーディング大学院プログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」(2012～2018)を企画・推進してきたが、どちらも「治療学」の名称を持ち、「治療学」の概念が醸成していた。

また、第5節に記載のあるように、2021年3月に竣工した医学部・医学研究院の新研究棟の玄関には、「医学系総合研究棟」という正式名称とともに、「治療学研究棟」という名称が併記されている。医学研究院の講座は、殆ど「治療学」という言葉を冠している。例えば、「脳・神経治療学研究講座」、「呼吸・循環治療学研究講座」、「先端がん治療学研究講座」、「高次機能治療学研究講座」などである。それぞれの大講座には基礎、臨床を問わず関係領域の研究室が配置されている。廊下を挟んで関連研究を行う基礎と臨床の研究室が並んでいる、といった具合である。「治療学研究棟」は医学部附属病院と廊下で繋がっており、大学院医学研究は、「治療学研究棟」を拠点に、ブランドデザイン将来構想に沿った大学院教育と研究拠点形成が進んでいる。



写真1-4-4-1
医学部・医学研究院の新研究棟の玄関の看板

第5節 医学系総合研究棟の新設



写真1-4-5-1 医学系総合研究棟外観（南玄関側）

2021年4月、教育研究活動の効率化と一層の発展を目指し、千葉大学亥鼻キャンパスに医学系総合研究棟（治療学研究棟）が完成した。

第1項 背景

千葉大学医学部は、1874年に千葉町に設立された共立病院が、県立千葉医学校・附属病院、第一高等学校医学部、千葉医学専門学校、千葉医科大学と変遷を経て、1949年に設置された。これまで使用していた施設は建築から84年が経過し、老朽化が進むなか、今後、医学部がより一層発展し、次世代の医学・治療を担う「治療学」の創成を進めていくため、新棟の建設が決定された。

第2項 概要

本施設の新築はPFI（Private Finance Initiative）事業として実施され、グローバル化に対応した次世代の多様なニーズに応える医療人を総合的に育成するため、教育研究基盤の構築と未来の医療を担う治療学研究拠点を創成する施設建設を目指した。

完成した11階建て40,000㎡の新棟は、研究領域が異なる研究者間の交流とコミュニケーションを引き出すため、建物の端部まで人と人が視覚的につながり、明るく開放感のある施設となった。



写真1-4-5-2 医学系総合研究棟

1階から4階に講義室、実習室、グループ学習室、福利厚生施設等が、5階から11階には基礎系・臨床系の研究室や実験室、プロジェクト研究スペース等が配置された。また、附属病院との間に連絡通路を設け、接続させることで一層の機能連携の強化を図った。

建物の外観は、千葉大学医学部の歴史と先進性を表すデザインを採用した。低層部の外壁は、旧医学部本館のタイル色と風合いを再現、歴史の継承と重厚感を表し、高層部は白系統色を基調とした縦ラインのデザインにより先進性を表している。

第3項 今後の展望

千葉大学医学部では、難治性の疾患を治癒やQOL改善に導き、患者目線での医療を届けることを目的とした「治療学」研究を目指す研究医と、最新の治療法を高い倫理観と患者さんを思いやる心を持って届けることのできる優れた臨床医の双方の育成を行っている。今まで以上の研究環境を確保することで、基礎医学と臨床医学を基に最先端の基礎研究の成果を新しい治療法の開発に結びつけ、教育研究活動の効率化と飛躍的な発展、および革新的な研究の創出が期待される。